

日本共産党市議団の一般質問

とのむら健一 市議

30人学級の早期実現を

教育長 都にねばり強く要求する

とのむら健一市議は、小泉内閣の大増税・負担増政策が市民生活に与える影響について質問。市長は、「定率減税廃止などが高齢者や弱者に与える影響否定できない」と答弁。認可保育園増設を基本にすべきとの質問には、「待機児解消のために必要だ」と答えて、本町

とのむら健一市議は、小泉内閣の大増税・負担増政策が市民生活に与える影響について質問。市長は、「定率減税廃止などが高齢者や弱者に与える影響否定できない」と答弁。認可保育園増設を基本にすべきとの質問には、「待機児解消のために必要だ」と答えて、本町



40人ぎっちな小学校の教室

佐藤よう子 市議

市教委の「君が代」声量強制は撤回すべき

教育長 撤回の考えはない

佐藤よう子市議は町田市教委が、卒業式・入学式の「君が代」斉唱の声を他の式歌と同じにするよう各校長あてに「通知」を出したことについて質問。「声量」指導は児童・生徒への強制であり内心の自由を侵すものであるから撤回すべきと迫りました。教育長は、「撤回の考えはない」と答えて、つめかけた傍聴者からは、怒りの声が上がりました。忠生地域の公共施設



建て替えが待たれる忠生市民センター

たかしま均 市議

介護保険制度改革、市のあり方を問う

助役 特養ホーム3カ年計画で整備する

たかしま均市議は、国が見直す介護保険制度改革の影響を質し、3月で打ち切る低所得者の利用料軽減措置を、市独自で今後も続けるべきと質問しました。助役は「大変きびしい」と継続打ち切りを答弁。しかし、特養ホームの増設には、「06年度から3カ年計画に基づき整備を進める」と前向きな回答が得られました。



鶴川駅マルエツ前

佐々木とも子 市議

コミュニティバス運行に積極的な財政支援を

市長 公共としての限度がある

佐々木とも子市議は、三月から実験運行が開始される玉川学園の丘陵地帯を循環する「コミュニティバス」に、市が積極的な財政支援を講じて、今後、南側ルート等の検討もすすめるよう求めました。市長は、「公共でやるには一定の限度がある」と答えて、「運行経費の30%内補助でやれば中止が前提。今回の結果をみて今後のことは検討したい」と答弁しました。



玉川学園を走るコミュニティバス

党市議団とむろや友英元市議



厚労省交渉をする、むろや友英氏(右手前)

障がい者施設を訪問

『障害者自立支援法』 応益負担は困る

日本共産党市議団はむろや友英元市議と市内の障がい者施設を訪問し、懇談しました。

行く先々で、『障害者自立支援法』で応益負担が導入されると利用者の負担がふえ、通所が困難になる人も出てきます。これでは福祉とは言えない。仕事はほしい、工賃を上げて自立で

きるようにしてほしい」という声が出されました。

また、東京都の人員費補助削減や、市の家賃補助削減が運営を困難にしていることや、家庭ごみ有料化で減免措置がないと負担が増え大変になることなどの声を受けて、むろや友英元市議は厚生労働省と交渉し、改善を求めました。

日本共産党躍進のつどい

6月4日(土)午後2時~ 代々木公園

志位委員長がお話します むろや友英さんも参加します

ぜひご参加ください

細野りゆう子 市議

市民病院の小児科医師の増員を

事務長 必要人員を確保したい

細野りゆう子市議は、市内で唯一の小児救急医療を行い、周産期医療整備を目指す市民病院で小児科医師の増員や、小児神経科医の配置を求めました。「小児科医は今の大学をベースにあらゆる手をつくして確保したい」と事務長が答弁しました。



二・三期工事完成後の市民病院

無料法律相談

5月25日(水) 町田市役所5階 日本共産党市議団控室

いずれも午後2時~5時 連絡先 ☎723-6312 または各市議までご予約下さい。

また、中学二年生の全市一斉職場体験については、教育長が、「六月末までには受け入れ先を開拓し、校長会と調整して進める」と答えました。

また、中学二年生の全市一斉職場体験については、教育長が、「六月末までには受け入れ先を開拓し、校長会と調整して進める」と答えました。